

* * 佐渡米通信 こめ〜る 24.9 * *



↑子供達が手掛けるほど独創的で
個性的な一つの絵になります



↑ブースも設置しちゃいました

今年も「世界一田めになる学校」開催！

8月9日に東京大学で「世界一田めになる学校」が開催されました。トキの郷佐渡市・マガンの郷大崎市・コウノトリの郷豊岡市の子供たちの活動報告や3市共同によるPRを目的として行われ、今年で3年目を迎えます。

今年は「小さな命、大きな未来」をテーマとして子供の目線から、「田んぼ」を見つめなおし、小さな身近な命を大事に思い、将来どう残していくかについて話し合いました。美術の時間ではイラストレーターの黒田征太郎さんが登場し、子供たちと田楽座のパフォーマンスに合わせて大きなキャンバスに思い思いの絵を描く授業や、3市の米粉を使ったお菓子が振る舞われた家庭科の授業など少し変わった授業が行われました。

会場の外のブースでは、田んぼにすむ生きものについての展示や3市の展示が設置され、佐渡市でもPRを行い、真夏の暑い日でしたが、多くの方で賑わいました。



3市自慢の米粉お菓子

ビオトープ作り参加

佐渡市・新潟市・七尾市（石川県）の子供達65人で、ビオトープ作りに挑戦しました。今年は昨年共にG I A H Sに認定された石川県の七尾市と佐渡の交流の場ともなり、共に日本の農業・環境に深く関わっている3市の子供達が縁あって、共にビオトープ作りをすることになりました。とても暑い日中に、約1時間かけてビオトープを作ったのですが、最初は固く乾いた土を掘り返し、水を水路から引き入れ、そして最後は皆で縦に並んで土を足でかき回しながら、柔らかい泥にしました。その後生きもの調査をすると、そこには、土の中を好む生きものと水辺を好む生きものどちらも見つけることができました。午後には、少し屋内でトキのことや田んぼのことをクイズも交えて勉強し、中には、「トキの鳴き声はどんな声？」「トキの雄と雌はどうして見分けられるの？」といった質問もありました。続いて「朱鷺の森公園」を訪れ、実際のトキの姿をみて、「羽がきれい」「案外大きいね」といった感想も……。熱心に学ぶ子供たちの目は、暑い日差しよりも熱く燃えていました。



遊んでるように見えますが、ビオトープ作りにとって必要な作業なんです



トキ情報

早朝の涼しい時間に田んぼへ行ってみると、群れで田んぼやビオトープで餌をつついて見られる様子が見られます。繁殖期が終わり、群れで過ごすことが多くなったためか、見つけることもたやすいからかもしれません。たまに出勤途中に群れで飛んでいる姿が見かけると、今日はなにか良いことが・・・と仕事に集中できます。（個人談）

田んぼの状況

8月14日現在、「コシヒカリ」については出穂が見られ、イネの黄色い花が咲き始めています。田んぼの風景も少しずつ濃い緑の絨毯から黄色へと変化してきました。“こしいぶぎ”にいたっては、コシヒカリよりも早い収穫にむけ登熟がはじまっています。



編集人：佐渡農業協同組合
農部米穀課 渡部・古城(ふるき)
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp
発効日：平成24年8月